



世継祐子さん
ファイナンシャルプランナー
がん情報ナビゲーター

福岡県出身。久留米市役所での勤務経験を経て、法政大学法学部を卒業。2002年にファイナンシャル・プランナーの資格を取得。企業や個人、顧問ファイナンシャル・プランナー、各種セミナーの講師を務める。NPO法人「キャンサーネットジャパン」認定の「がん情報ナビゲーター」の資格を取得。テレビ・雑誌などのメディア取材多数。

<http://www.ff-fukuoka.com>

災害時に知っておきたいお金のこと

各地で大きな被害を出した記録的な豪雨や連続して発生した台風、地震の被害など、異常気象や自然災害が続いています。万が一災害が起こった場合に知っておくためになるお金に関することを紹介します。

大雨や台風など最近の異常気象の影響が今後も続かもしれないと気になっています。万が一、自分の住む地域が被害に合った場合に備えて、住宅ローンや預金通帳などお金の管理についても知っておきたいです。

太宰府市在住28歳 女性(主婦)

災害時は安全を最優先に考えて行動することが一番大切ですが、災害後の生活の立て直しに必要なお金のことや、入・通院にかかる費用、保険の手続きなども知っておきたいポイント。また、住宅ローンなど返済義務なども気になることのひとつだと思います。万が一の際に、慌てずに対応できるようにお金に関するあれこれを備えておきましょう。



災害時には様々な支援制度も用意されています

今年 は西日本を中心に記録的な大雨となり、各地で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し甚大な災害となりました。9月には北海道地震も起こってしまいました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。大雨、台風などの気象情報や地震情報には十分に気をくばり、早めの避難を心がけましょう。

災害時にご自身の通帳や現金などが気になって避難が遅れ、災害に巻き込まれたりすることがないよう災害時のお金の取り扱いについては事前に確認をしておきましょう。通帳や保険証などは紛失してしまってもどうにかなる



ということを覚えておくため、わざわざ行動できると思います。また、災害時には様々な支援制度が用意されています。家族が死亡やケガをした場合、「災害弔慰金(最大500万円)」、重度の障害を負ってしまった場合、「災害障害見舞金(最大250万円)」、住まいが損壊した場合、被害の程度や再建方法に応じて「被災者生活再建支援基金(基礎支援金・最大100万円、加算支援金・最大200万円)」といった公的支援があります。適用には細かな基準があるので、詳しくは各自自治体などにお問い合わせください。

現金・預金 クレジットカード に関して



紙幣は、破れていても2/3の面積が残っていれば全額、2/5以上2/3未満残っていれば半額の新しい紙幣と交換してもらえます。預金の引出しは、大規模災害時には金融機関が柔軟に対応してくれる場合があります。ゆうちょ銀行は7月9日、災害救助法が適用された広島、岡山、京都、福岡などの指定地域で通帳や印鑑がなくても身分証明書などで本人確認ができれば1人20万円までは預金の引出しを可能にする「非常取扱い」の実施を発表しました。まず銀行の窓口で相談してみましょう。クレジットカードは盗難の恐れもあるので、早めに利用停止、再発行手続きをしましょう。

保険証を 失くしても 病院に行ける!?



保険証を失くしたり、自宅においたままでも病院に行くことをためらう必要はありません。災害救助法の適用地域では、病院や薬局で氏名、生年月日、連絡先、加入している保険者の情報(健保の場合は勤務先の事業者名、国保・後期高齢者医療制度の場合は住所)を伝えていただく、通常の保険診療と同じように一部負担で治療、投薬が受けられます。

また、加入する健康保険によっては被災者に対し、窓口負担の免除や保険料の納付期限の延長、納付猶予といった措置を講じている場合があります。加入している健康保険に問い合わせましょう。

住宅ローンなどの 返済義務について



住む家や働く場所を失い、住宅ローンなどの借金が残ってしまったという大きな困難に直面する場合もあります。原則では返済義務は残りますが、返済を猶予してもらえたり、返済の一部が免除されることもあります。

ローンなどの「債務」を整理するには私的整理「破産」「再生」などの方法がありますが、全国銀行協会では、大規模な自然災害でローン返済が困難になってしまったときは私的整理をしても個人情報に記録を残さないことがガイドラインとなっています。財産の一部を残したままローンを清算できる場合もあります。まずは相談をしてみましょう。

今回のまとめ

「自分が被災者になるなんて…」多くの人がそう思うのではないしょうか。予期せぬ事態に備えて、災害にあったときに受けられる支援制度を知っておくことで、その後の行動は大きく変わります。共済、保険の災害時の保障内容も十分に確認し、再出発できる内容にしておくことも大切です。



自然災害に備えて「非常用持ち出し袋」に身分証明書・通帳のコピーを入れておくようにします。できる準備は事前に!が大切です。

